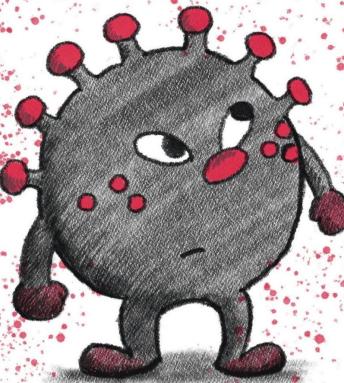




しん がた
新型コロナウイルスと生きる子どもたちへ

げんきなこころと げんきなからだ

みやもと かれん
作:宮本 佳蓮 きくざわ あつこ
絵:菊澤 篤子



 日本赤十字社 京都府支部
Japanese Red Cross Society



Henry Dunant (1828~1910)

やあ みんな、はじめまして。
ぼくの名前は アンリー・デュナン。
スイス生まれの おじさんさ。
これから みんなに
きいてほしい話が あるんだ。

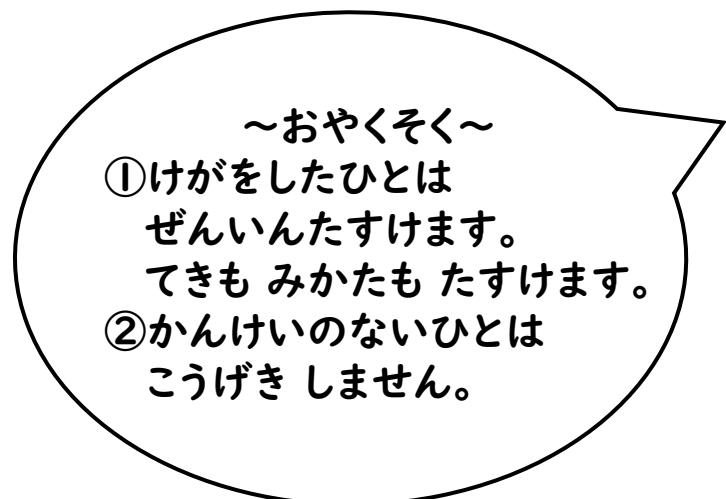
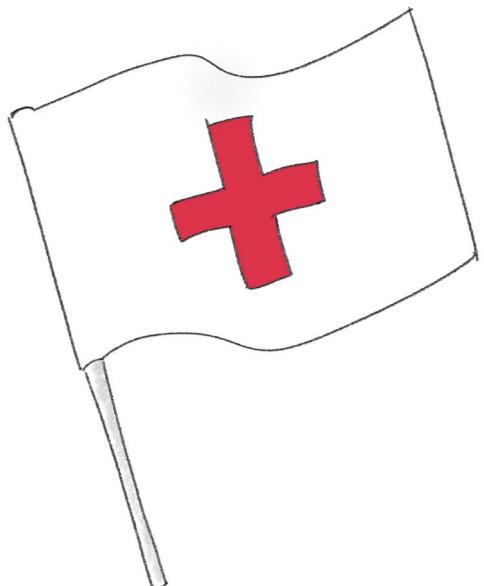
むかし、イタリア という國で
大きなせんそうが あったんだ。

たくさんの人みがケガをしているのを見て、
ぼくは町まちの人ひとといっしょに手てあてをしたよ。

どこの國くにの人ひとでも、子どもこどもでもおとなおとなでも、
みんなたすけあうべきだとおもったんだ。



そのあと、くるしんでいる人を ^{ひと}たすけるために
「せきじゅうじ」というチームを作ったんだ。
そして、せんそうのルールも 考えたよ。



『ユルフェリーの
思い出』

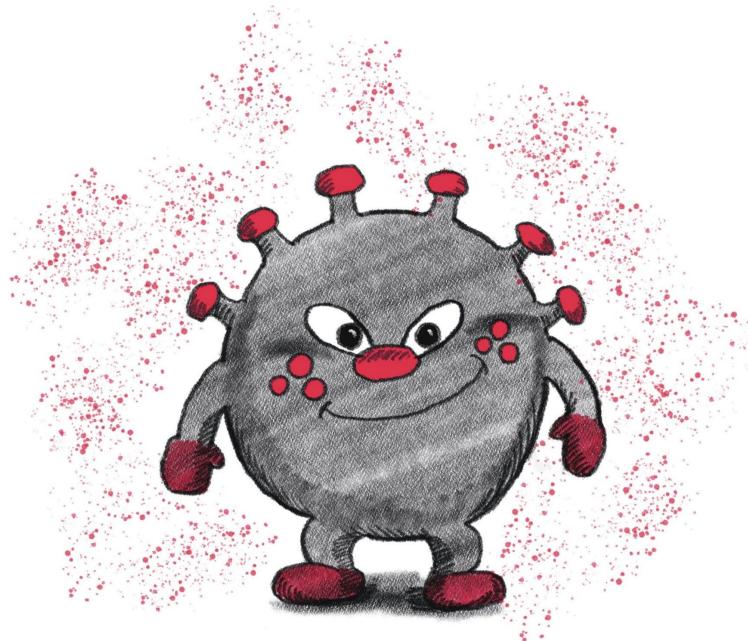
だけど、せんそうがない時ときでも
きずつけられて かなしんでいる人がひといるよ。

なかまはずれに されたり、
いやなことを 言われたり。

これからする お話はなしは、
きみたちの近くで おきていたこと なんだ。

しんがたコロナウイルスって 知ってるかい？

かぜのなかまで、高いねつが でたり
いきが くるしくなったりする びょうきだよ。

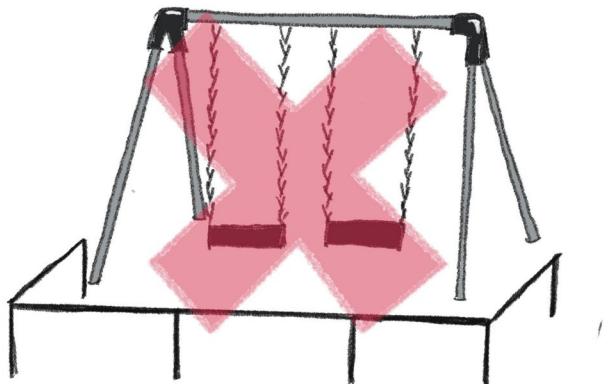
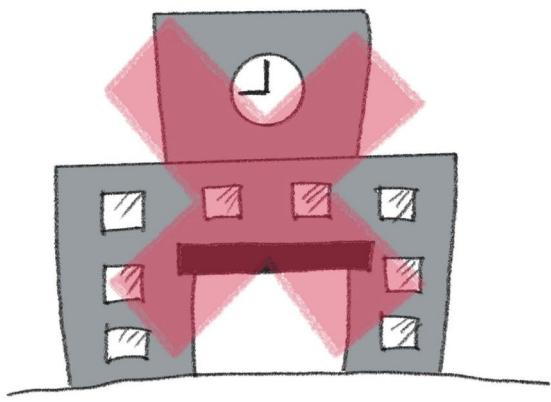


2019ねんから、せかいじゅうで
たくさんの人ひとが このびょうきになったんだ。

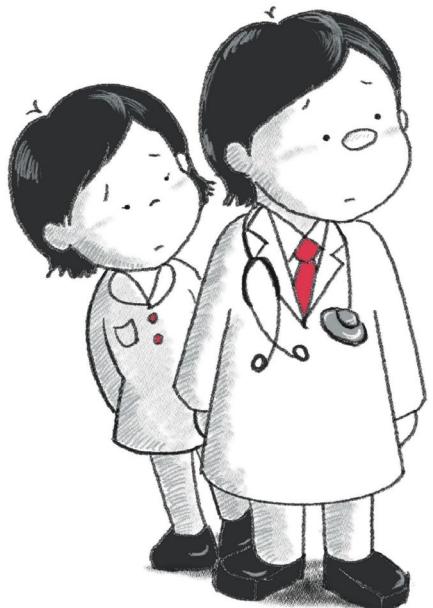
ひと ひと
人から人に うつるびょうきだから
みんな おでかけしなくなっちゃった。

がっ こう やす
学校も お休み、こうえんも あそべない。
とっても かなしいね。

だけど、もっと かなしいことが あったんだ。



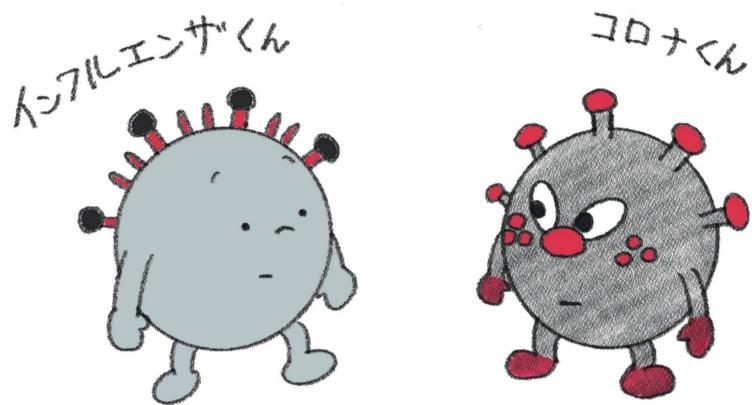
かんじやさんや その家族が なかまはずれに されたり、
びょうきをなおすために がんばっていた
おいしやさんや かんごしさんが
「びょうきが うつった」とうわさされることが あったよ。
おうちに らくがきされたことも あるんだ。



ちかついちゃ
ため!!

そんなことをしても、
びょうきは なくなるないのにね。

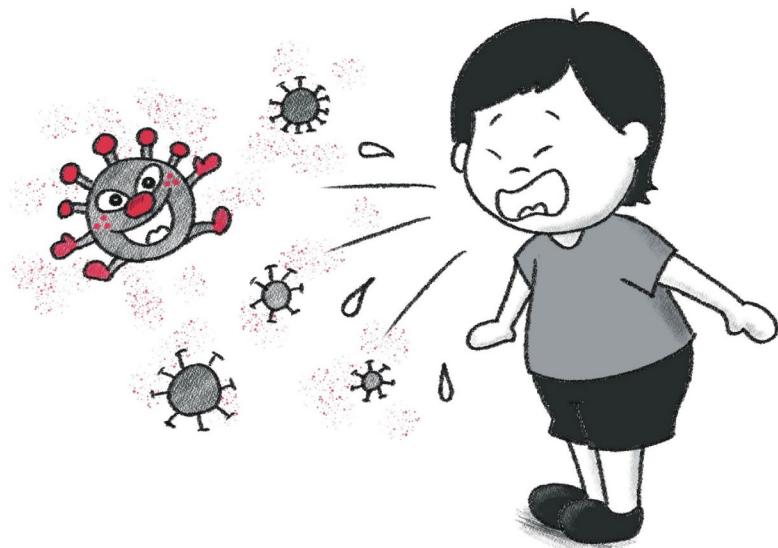
しんがたコロナウイルスのように
ひとからひとへうつるびょうきのことを
『かんせんじょう』といいうよ。



あのインフルエンザも 同じ
『かんせんじょう』のなかま なんだ。

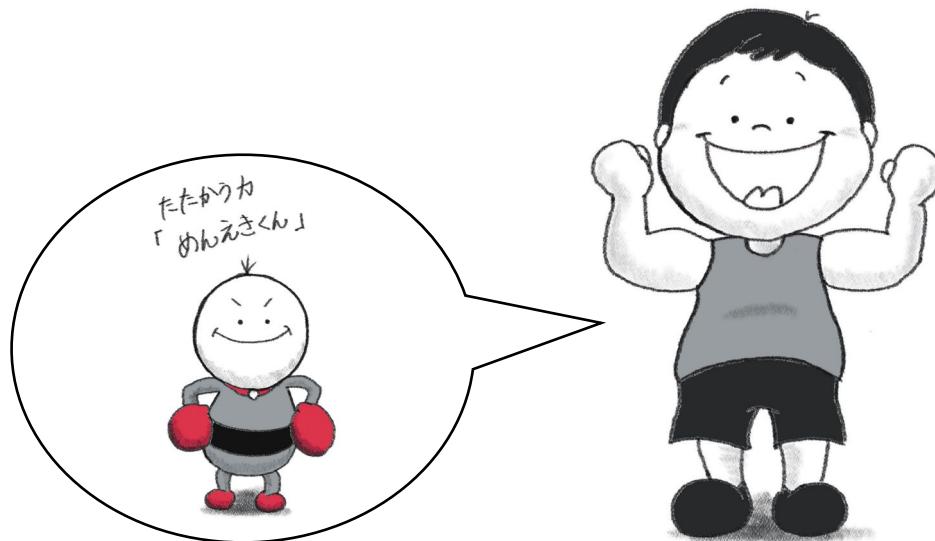
ウイルスや きんなどの ばいきんが
体の中に入ってきて、かんせんしようとすると、
のどや おなかが いたくなったり、
せきを したり、ねつが 出たり することがあるよ。

ばいきんは とても小さくて 目には
みえないんだ。
人や ものや どうぶつにくつづいたり、
空気の中を とんだりして、広がっていくよ。



でも、だいじょうぶ。
ばいきんが 体の中に入ってきても
きみたちの体は ばいきんとたたかう力を
もっているんだ。

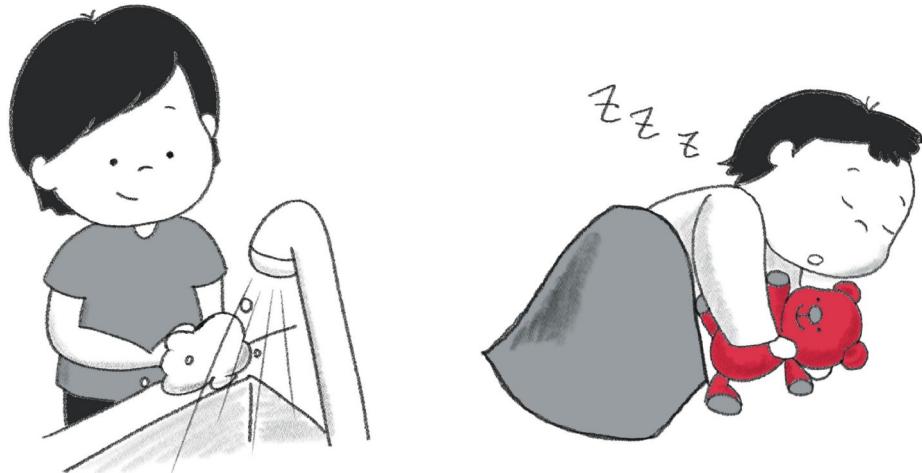
生まれた日から今日まで なんどもたたかって
どんどん 強くなっているよ。



そして、元気な人のほうが、
たたかう力が強いと 言われているんだ。

だから、たたかいにかつためには
よく食べて、よくねて、うんどうすることが
とても 大切なんだ。

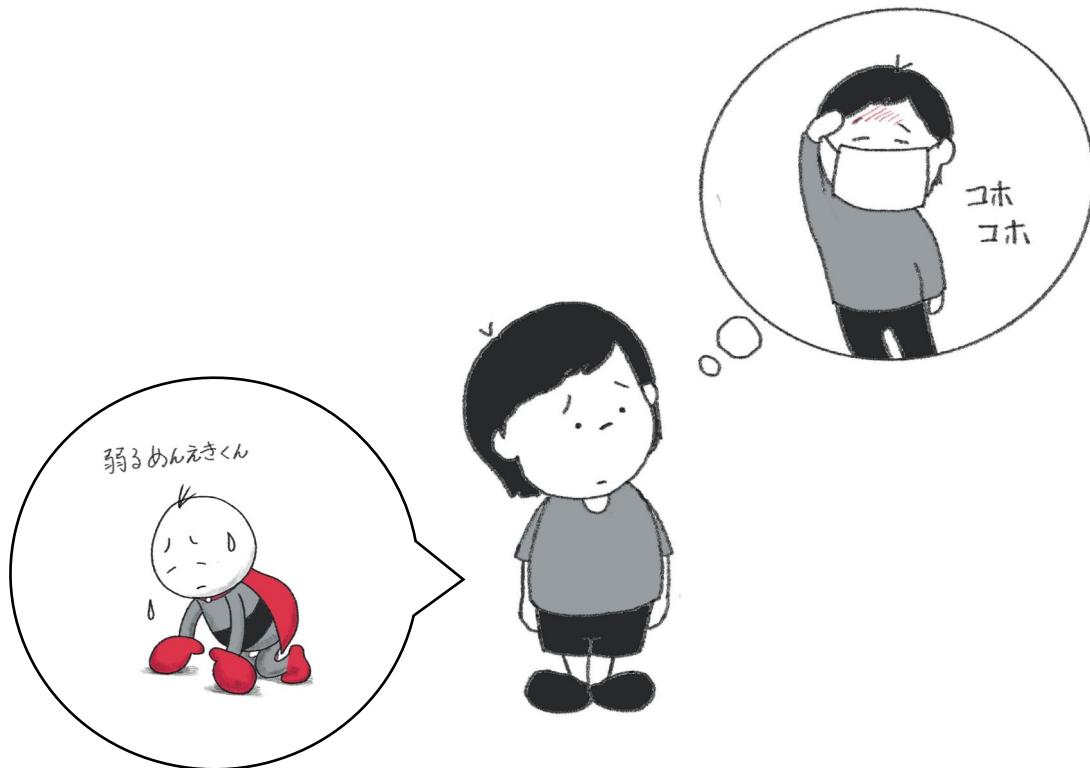
ほかにも、手あらいやうがいをしたり、
元気がないときはゆっくりやすんだり、
おふろにつかって
体をあたためることもいいね。



でもこれって、あたりまえのこと?
いつもと同じせいかつをすることが、
心と体の元気のためには
大切なんだ。

たくさんの人気が びようきになると、
つぎは 自分かも?と 考えてしまふよね。

しんぱいしたり、こわくなったり…



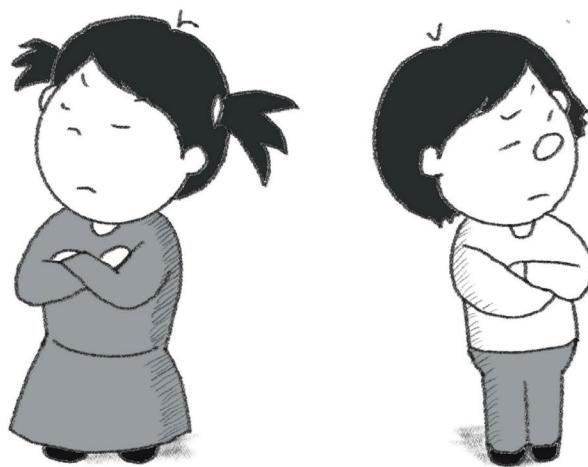
だけど、心が 弱くなっている時は、
もっと びようきになりやすくなっちゃうんだ。

考えないことも 大切だよ。

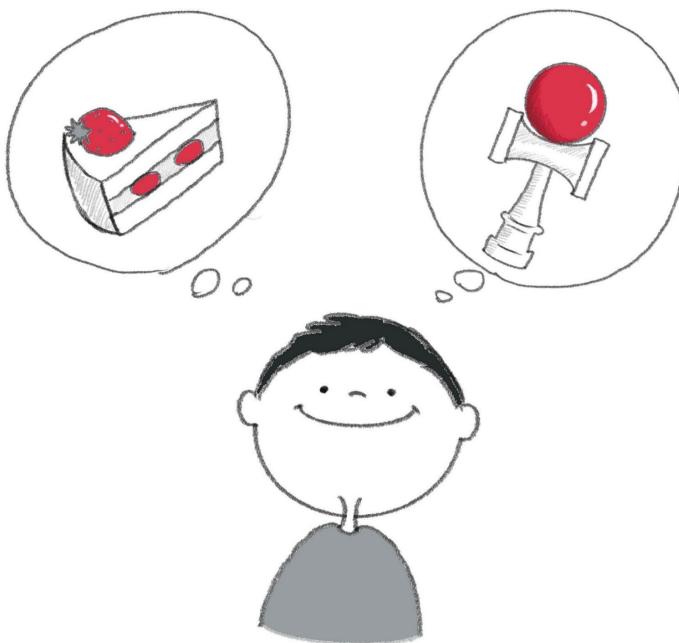
しんぱいごとがあるときや、
こころ
心がくるしいなってかんじるときは、
わざとじゃないのに、お友だちを
きずつけてしまうことがあるんだ。

「あっちいって！」
「いっしょにあそばない！」
「だいきらい！」

かなしいね。
ほんとう
本当はみんなで遊びたいのにね。



そんな時は、すきなおやつを たべて、
すきなおもちゃで あそんで、元気を 出そう!



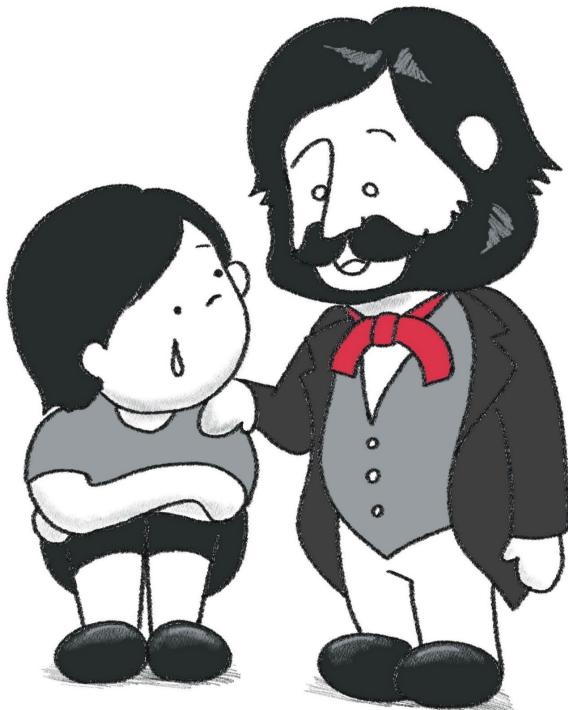
きみの すきな食べものは なにかな?
むちゅうになれる あそびは なにかな?
樂しくなる 歌は なにかな?
きもちがおちつく ばしょは どこかな?

元気のもとを さがしておこう!

たくさんの人ひとが びょうきになったり
じしんや つなみで 家いえがなくなったり
大切な人たいせつが いなくなったり。

ふあんなこと、かなしいことは たくさんあるね。
だけど、こまつた時ときこそ
みんなで 力ちからをあわせて たたかうんだ。

みんな ともだち。みんな なかま。



どんなにくるしくても、どんなにこわくても
みんなといっしょなら だいじょうぶ。

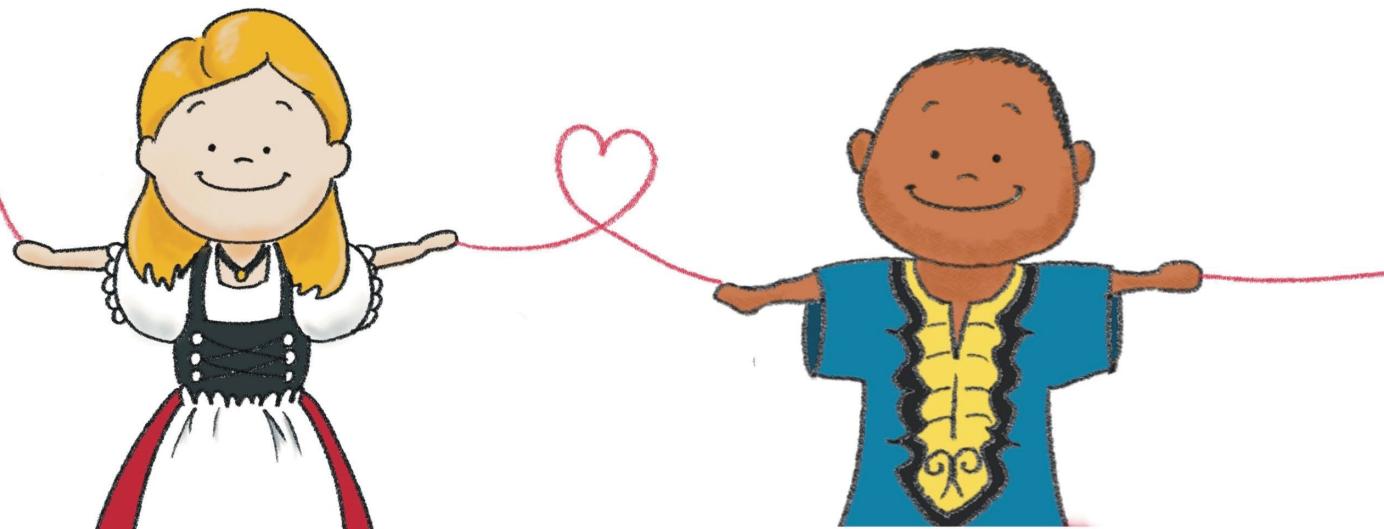
だれかを わるものにして せめたって
だれかを なかまはずれにしたって
いやなことは なくならない。

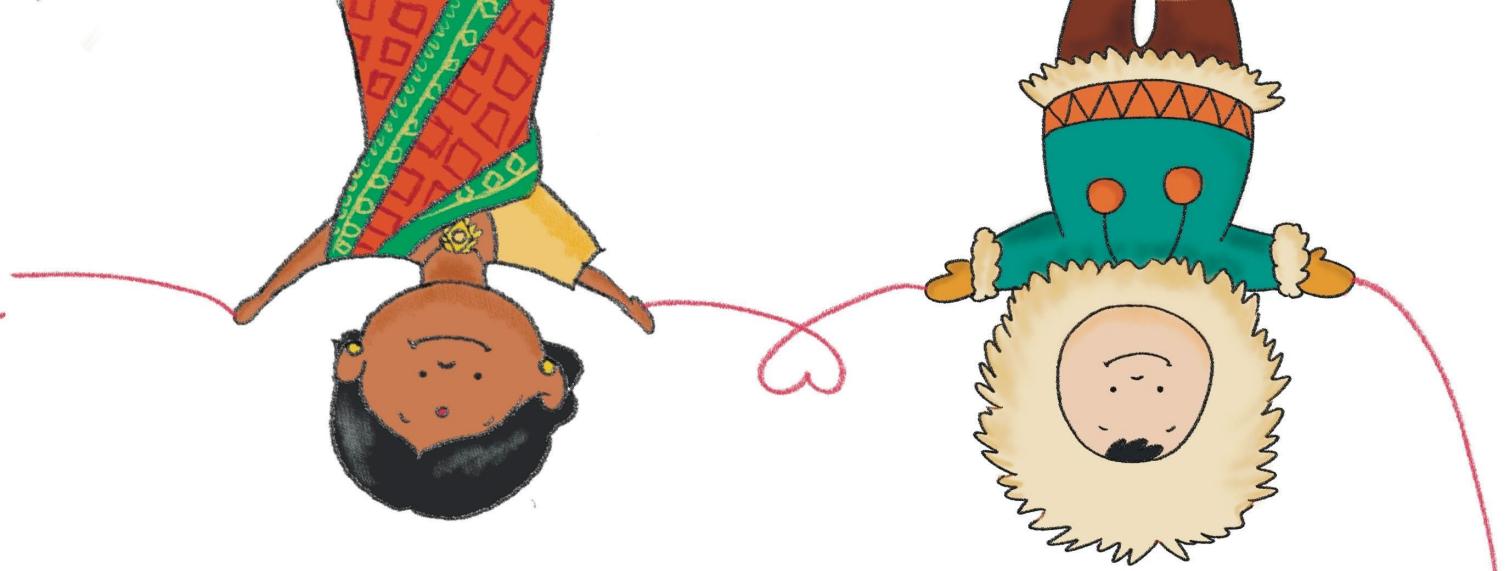


どこのくにの 人ひとでも、
こどもひとでも おとなひとでも
こまっている人は みんなで たすけあう。

こまつたときは
たすけてもらって いいんだよ。

あいことばは
『みんな ともだち、みんな なかま』





げんきなこころが あれば、
からだも げんきになるね。

こころ ポカポカ、にっこりえがお。



あとがき

先日、新型コロナウイルスについて、感染症法上の位置づけが引き下げられるというニュースがありました。これからは季節性インフルエンザと同じ『第5類』に移行し、新型コロナウイルスという名称も、コロナ2019などに変更するという案もあるそうです。

では、どうして今このような絵本を出すことになったのか？それは、同じ過ちを繰り返さないために、今こそ「学ぶ時」「備える時」だと考えたからです。

これまで、ペストやエイズなどの感染症が世界的大流行(パンデミック)になる度に、感染者らが差別・迫害・排除などをされてきた歴史があります。その対象となったのは、感染者だけに留まりませんでした。

感染症には、3つの顔があると言われています。医学的な感染症として『病気』があり、その未知の病に対する『不安』は2つ目の心理的感染症と言えます。そして、『不安』が広がった先の『差別』は社会的感染症であり、この『差別』を恐れて、適切な医療を受けれなかったり、症状を偽るなどして、更に『病気』が広がる。この3つの感染症は繋がっています。

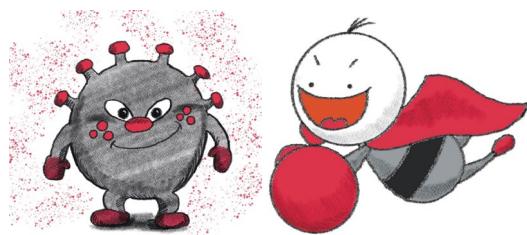
『病気』を防ぐためにはそのウイルス等にあった感染対策が必要ですが、どんな感染症でも『不安』『差別』に繋げないための方法は同じです。

- 正しく知り、正しく恐れる。不安を煽らない。
- 不安な時は攻撃的になりやすいことを自覚し、言動・行動を意識する。
- 「いつも通り」の生活を送るために、心を安定させる方法を身につける。

これらの『感染症レジリエンス』(感染症に対する適応力)を高めるための方法が、子どもたちにも伝えられればと思い、この絵本作りに至りました。

子どもたちが大きくなった時、また新しい感染症が流行しているかもしれません。その時、『病気』を正しく知り、『不安』『差別』への連鎖を断ち切る力を持った人が多くいれば、また同じ過ちを繰り返さずに済むのではないかでしょうか。ひとり一人の思いと行動で、感染症を理由に排除される人が無くなる社会を願っています。

令和5年(2023年)2月
京都府青年赤十字奉仕団
赤十字京都ユース 宮本佳蓮



人間を救うのは、人間だ。